

医療安全情報 レポート

Vol. 3



標準採血法ガイドラインで推奨される採血の順序（真空採血管の場合）

各採血管の間での内容物のコンタミネーション※による検査値への影響を防ぐためです。

- ①凝固検査用採血管
- ②赤沈用採血管
- ③血清用採血管
- ④ヘパリン入り採血管
- ⑤EDTA入り採血管
- ⑥解糖阻害剤入り採血管
- ⑦その他

または

- ①血清用採血管
- ②凝固検査用採血管
- ③赤沈用採血管
- ④ヘパリン入り採血管
- ⑤EDTA入り採血管
- ⑥解糖阻害剤入り採血管
- ⑦その他

凝固検査用採血管と血清用採血管のどちらも先に血液を採取するべきかについては現在も確定的なエビデンスは得られていません。

以下の表にそれぞれの場合の利点と欠点をまとめてあります。すべての場合に適切という方法はないと考え、各施設で対応法を取り決めておくことが望めます。

【凝固検査用採血管と血清用採血管の採血順による利点と欠点】

	凝固検査値への組織液の影響	凝固検査値への凝固促進剤の影響	電解質検査値への影響	凝固検査用採血管の採血量不足	望ましいと思われる状況の例
1番目に凝固検査用採血管に採血	大きい	なし	Na偽高値の可能性	可能性低い	・PT、APTTのみの検査 ・十分な採血量が得られない場合
1番目に血清用採血管に採血	小さい	可能性あり	K偽高値の可能性	可能性あり	・穿刺に時間がかかった場合 ・TAT等の特殊項目を含む場合

※コンタミネーション

化学物質などによる汚染。科学実験における雑菌や異物の混入、食品加工におけるアレルギー物質の混入などをいう。試料汚染。